

岩屋山 観音たより

発行所：和歌山県

海草郡下津町橋本一〇六五

福勝寺内

電話 (073) 4941032
編集人：本多碩峯

修行僧・同行二人 本多碩峯

二十一世紀は生きがいの創造(四)



ジャワ島中部にある大乘仏教の遺跡ボロブドゥールの景観

創造こそわが人生

わが宇宙に地・水・火・風・空が育まれ、
一切の生命があらわれ、そして進化して六大
要素「地・水・火・風・空・識」が育まれて、
人間がいろいろなることを今日に至ってお
ります。この事は実は非常に大きな創造力
を発現して来ていることを前号で申し上げ
ましたが、昨今、日産自動車のカルコス・



『華厳経』の壮大な世界が数百枚のプレートに刻まれている

ゴーン社長の改革、小泉首相の改
革という言葉が新鮮なものとして
私たちの心に刻まれています。こ
の改革も創造力そのものでありま
す。何物にも妨げるものの無い本
当の自由が存在して本当の創造力
が生まれます。そうあることを祈
念する。
ある記者がカルコス・ゴーン社長
は「今一番困っていることは何です

真理の花たば



『一芸は立つ』

一芸に打ち込んだものはそれによ
て身を立てることができる。

弘法大師講本部・四国六番安楽寺
住職・畠田秀峰師書

か」と問いかけたところ「それは言
葉です。日本語です。日本語はたい
へん難しいので、仲々覚えられませ
ん」と笑いながらの返答であった。
彼は、コミュニケーションを最も大
事だと思っている。心と心が通じ合
えば、どんな難しい大きな問題でも
解決できるのだと言っています。
創造力はアナログ思考
今や人間の生活の根源を司る
「衣・食・住」の科学の進歩に驚きさ
ら感じます。日本人の平均寿命が世
界一になったとか。これらの事を
手放して喜べないことも事実であり

明日への装いを提案します!

寝装・和装・洋装・総合繊維卸

株式会社 **マスメン**

代表取締役 増田都司夫

本社

〒640-8376 和歌山市新中通2丁目8

TEL (073)424-4466(代表) FAX (073)436-6508

豊かなまちづくりに参加します!

株式会社 **田淵建築設計事務所**

代表取締役 木田耕蔵

本社

〒640-8287 和歌山市築港4丁目2-1

TEL (073)431-0261(代表) FAX (073)431-3898

ます。これらの原因はマイクロコンピュータの飛躍的な開発も一つであります。業界は益々高度な投資が行われる事でしょう。

ところで、誤解してはならない重要な事は、これらのコンピュータの発達によって、このコンピュータが新技術を発見するとか、次ぎから次ぎへ新しいアイデアが生まれるとか、理論の世界で次々と新学説が見出されるなどは期待できないわけでありませぬ。

出来ない理由の一番大きいのは、図形認識力、パターン認識が人間の知能に比べお話にならない位コンピュータは貧弱であるということです。

私たちが科学史、技術史を振り返って人間の頭脳活動というものの決定的重要性を認めないわけにゆきませぬ。史実による偉大な着想というよつなものが生まれるときには、諺、比喩、あるいはアナロジー（類推）という言葉で呼ばれている思考が重大な役割を果たしております。

つまり一見漠然とした情報処理としての、図形認識力が中心になっているのです。

私自身、造船所時代の防衛庁水中兵器の半導体回路を応用した近代兵器としての開発に従事した経験、初期の電子ばかりの開発の経験からその開発・研究過程で、最初に「ディテール」(詳細)

から入るのでなく、まず推測、推論という形をとるのですが、これが比喩、形容的即ち人間知能によるパターン認識です。

日本文化の俳句、短歌、川柳等がアナロジーであり人間知能のパターン認識を象徴するそのものです。

この事がコンピュータに無い人間だけが育んでいる最も尊い創造性でありませぬ。昨今の社会秩序の欠如を反省するに私たちの先人が生み出し育んできた俳句や短歌や書道や茶道、華道、精神面では柔道等、優れた思考が生かされない環境が創り出していると考えられます。柔道などはオリンピック種目に採用されて以来、本来の「道」の精神の習得が重んじられない現状をさびしく思う一人です。

特に剣道の「剣禅一致・剣禅一如」が正にそつであります。不動明王の左手にクサリ、右手に剣をもつた姿、決して生身の身体を縛るものでなく、生身の身体を傷をつける剣でありませぬ。誰でも持った煩惱を縛り、剣で刺す姿が不動明王です。そのような精神的パターン認識が剣道の醍醐味だと思えます。

この様な人間の優れた感情状態の表現が大切です。たとえば「春風が頬をなせる」というような言葉を一つをとってみても、これを文字通りに解釈しますと、大変おかしなことがわかります。風が

類つべをなせるというよつなことはどう考えても精神分裂症的な発想です。しかし、よく考えますと、表現として、形容として、比喩としてこれは大変な意味があるのです。古来、人に対して強い説得力をもたれてきた人々は、さかんにこの比喩を使っています。

仏教界の僧侶をはじめ、カトリックの神父さんでも、能力の高い政治家、能力の高い企業経営者も、およそ人々に説得性の高い話をしなければならぬ条件下にある人々は必ずといっていいほど比喩を使っていることを再認識しましょう。今日の生活の周辺が携帯電話、パソコン、家電等のデジタルの恩恵に授かるあまり、日常生活に比喩的発想やアナログ思考を幾らでも利用できる事を忘れて

いる。一九五五年代に数学者の岡潔先生が普段の脳の訓練にテレビの漫画が最も優れていると語っていた事を思い出す。遊びの世界にも重大な創造的発想に関連をもつた原理が含まれているのかもしれない。

お釈迦さまの創造

お釈迦さまは、今から二千五百七十年前、インドのヒマラヤの南麓ガピラ城に一国の皇太子としてお生まれになりました。

この世の中に人間としてお生まれになると、すぐさま六歩半お歩きになつ

て「天上天下唯我独尊」とお叫びになつたと伝えられる。

人間が生まれてすぐこんな言葉を叫ぶはずが無い。先ほど学びましたよつに比喩として重要な意味があるのです。

六歩歩くということは、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の六道輪廻の迷いの世界を半歩踏み出されて、人間界から脱皮していることを物語っているのです。誤つた考案として「天にも地にも我れ独り尊し」を自分ほど、えらい者はいないんだ、自分こそ世の中を統括する指導者であると、これは誤りです。

実は天上天下とは自分の上、自分の下すなわち全宇宙ということ。全宇宙のいのちと恵みを一身に受けて、只今ひとり人間として生まれさせていただいた嬉しき、素晴らしき、尊さをお叫びになつたのです。

人間として生まれてこそ、世のために働ける。よくぞ人間に生まれて来たものだ、天地宇宙の生命に感謝のお言葉を放つたのです。

これは何もお釈迦さま独りのことを言つたのではない。この世の中に一人ひとり、人間としての身体と生命を持って生まれてくる私たち人間すべて、お釈迦さまと同じ唯我独尊の尊い人間であり、仏の子であることを表しています。

初心に帰る

関西で最も早くマイクロコンピュータ

ターのシステム機器の製作会社を創立
上場準備段階に入って倒産、微力ながら
希望と夢に築いてきた無くしたくな
い、名譽、ヒト・モノ・カネの一切を失
い、その上、人様に迷惑を残して、半年
後に懺悔と感謝の四国八十八ヶ所徒歩
巡拝に出発する。

十一番札所焼山寺の遍路庵で宿とし
た時、翌朝、眼下に見える朝日を礼拝
しながら走馬灯の如く幼少の頃を流し
て思いにふけり、感謝と懺悔の中に四
国遍路の素晴らしさに感動、「天上天下
唯我独尊」と帰る山彦に耳を澄まし
て心に頂き山を下りる。

女性の理想像

昨今の女性の目覚ましい社会進出を
歓迎するのですが、平和な家庭の欠
如による不幸なことがあまりにも多い
ことです。

そこで、歴史を振り返り、何時の時代
でも女性の家庭の役割が如何に素晴ら
しく尊いものであるかをよく知る必要
があるのではないだろうか。

私は日頃、お話し申し上げていること
を簡単に述べさせていただきます。

家庭内育児、老人介護、家事一般、子
供の家庭教育が女性の役目として如何
に重要で尊いものであり、国家的な役
目を女性が担ってきたのであります。

この際、尊い重要な女性の役目を女
性の社会的職業に選択肢の一つとして
認知していただければ如何でしょうか。

是非小泉首相の創造的改革の最も大きな問題
として取り上げて頂きたいですね。

その創造的改革として家庭専業主婦に是非
国家より「奥様給料」を支払って頂きたい。そ
の為に、現在の社会福祉、年金制度を根本
的に創造的な改革をして頂きたい。

小さくても縁側から中庭の見える部屋で朝
のあたたかい一仕事を終えお茶を飲む余裕の
中に奥さまの幸せを感じるひとときを過ごすこ
とが 国家の原点のような感じがいたします。
今年の春、中学を何とか卒業、登校拒否の一
六歳の少年がお父さんと当手に気分一新のため
にやってきました。

お父さんによると「この少年が中学校では飛
びぬけて優秀であったそうです。一泊され朝早
くから境内の掃除、勤行、瞑想、写経等を熱心
に父子が過され帰毛されました。

法話の中で「諸行無常」「諸法無常」につい
てできる限りやさしく話をさせて頂きました。
「どうですか、理解できますか」と聞きますと
少年から「諸行無常」という言葉を聞いていま
すと言葉が返ってきました。平家物語で知っ
ていることを話されました。驚くと同時に「この
少年には心配はいらない」と直感しました。

祇園精舎の鐘の聲

諸行無常の響きあり

「この言葉は、平家物語の冒頭にある古文で
す。今から二千五百年前、お覺りを開
いて仏陀に成ったお釈迦さまが、自分の

覺りは自分だけのものではない。

これを多くの大衆に説法し、人類永遠の
救いの道となればと思いい、始めて修
行道場（お寺）をお建てになったのが竹
林精舎と祇園精舎であります。

その一つ、祇園精舎は当時、インド第
一の富豪といわれた須達長者が建立寄付
したと伝えられている。

この須達長者の息子の嫁は玉耶（ぎょ
うや）といい、インド一の美貌の持ち主
であった。玉耶夫人は、自分の美貌を誇
りて女性の道を知らず、礼儀なく柔順な
らず、常に放逸に振舞ったと玉耶経に書
き出されています。

**放逸：節度をわきまえず、勝手気
ままに振る舞うこと。生活態度がだ
らしないこと。また、そのさま。「や
もすれば に流れる」「な生活」**

夜は毎晩、夜半過ぎるころまで遊び歩
き、朝は陽が高まるまで寝そべっていた。
これに困り果てた須達長者が、お釈迦
さまに説法をお願いしたので。お釈迦
さまは、玉耶夫人に対して、女性の道夫
人の在り方について五善三悪の教えを説
かれました。五つの夫人としての美德と
三つの注意すべきことをじゅんじゅんと
お説きになりました。

- 五善とは、
- 一、長幼に施しをする。
- 長幼：大人と子供。年上と年下。
- 二、謙讓の心
- 謙讓：万事に控えめで、他人に讓

ること(さま)。けんそん。の美德」
人となり、温和 にして
三、操を守る。操：精神的に上品で立
派なこと。

四、夫に仕える。

五、留守と家計を守る。

という家庭婦人の徳である。

一方、三悪とは、

一、不遜な態度

不遜：思いあがっていること。おこ
りたかぶっていること。また、そのさ
ま。「な態度」

二、淫気な心

三、他人の美醜を論じ口論を事することがあ
る。

美醜：美しいことと、醜いこと。
要するに女性の美しさは外見容貌だけ
はない。本当の美しさは心の美しさである
ことを玉耶夫人に説かれたのです。

外見の美しさは年とともに衰える。どん
な美人でも諸行は無常であって刻々と変わ
りいつまでも美貌の持ち主であることは
できない。それに比べて、磨けば磨くほど
に美しさを増すものは心の美しさである
ことを述べておられます。

玉耶夫人は、この説法を聞き、「玉耶進
みて仏戒受けたれば、心眼たちまち開け、
智慧の光明輝きて貞淑の良婦となりぬ」と
玉耶経は結ばれている。

女性の理想像、それは心に慈悲を秘め、そ
の心が容姿端麗な姿をなしている観世音菩
薩であります。
大口経縁品に観世音菩薩の「容場を次の
ように書かれています。

『北方に観世音菩薩あり、中年の女人にして黒髪長く、微笑して手に青蓮を持ち、円光遍して白衣鮮やかなり。』

観世音菩薩は、円熟した女性であつて、いつも顔面にスマイルをたたえ、円やかな光彩を周囲にただよわして、綺麗さっぱりとした衣服を装っています。

まさに女性の理想像といつべきでしょう。



観世音菩薩

結果 コンピューターからの出力

その生み出すそのものでなく、入カされる全現象を物語るものであることを十分に認識することが大切です。この現象が例えば現在の世相でもあるのです。人間の正しい想念は常に創造的発想を求めたものでなければならぬ。その根底に実存する真理(空海密教では大日如来の法身説法)に基づくものであることです。

コンピューターは人間の創造によつてくられたものだといつことです。いくつかの性能は確かに人間を超えていることは事実であり、さらに情報処理能力が大きくスピードも速くなるでしょう。

コンピューターに比べてどこでも人間の優れていることは、何種類もの感覚器官があり、その中でも目とか耳とかが非常に発達していて、自分の周囲の状況判断を終始しているだけでなくて、非常に大事なことは、外の世界を見たり、聞いたり、見聞きしていることが学習し、いつの間にか非常に多くのことを学んでいる。それ故、非常の高度な図形認識即ちパターン

E・F シューマツハーの仏教経済学 (二)

今から二十八年(一九七三)にシューマツハーは仏教経済学を語っている予言が、今日まさに、そのことが大きな問題提起となつています。

産業界は勿論、農業界にもこれぞ近代農業とグローバル化近代化農業は今日最大の苦境の最中にある。紀州ミカンの環境に適した急傾斜地栽培は近代化に遅れた事が最も幸いしていることは何を現わしているか、しかし農家の若者の都会への移動(故郷離れ)の現実には蜜柑園の継承に大きな問題を提示している。「仏教経済学」という章(注一)を立ててこう語っている。「仏教的な観点からすると、仕事の役割といつものは少なくとも

認識が身についていることです。この学習は自分の気付かない間に学習していることです。

仏教の瞑想、座禅、止観等の修行はまさに真理に基づくパターン認識の学習です。しかもコンピューターはその情報処理に常に受身でありますが、人間の感覚器官を通して目とか耳を通して獲得する情報は単に受身的でなく、その情報を利用して、自分で考えているということなのです。人間はそれを図形認識としてアナログ的に考え、例えば瞬間に見分けるとか直観などがそうであると言われています。

も三つある。人間にその能力を發揮向上させる場を与えること、一つの仕事を他の人たちとともにすることを通じて自己中心的な態度を棄てさせること、そして最後に、まっとうな生活に必要な財とサービスを造り出すことである。

注一「スモール・イズ・ビューティフル」小島慶三、酒井懋訳、講談社学術文庫、七十一頁。

重要なのは、「はたらく」ということの意味を、「金を稼ぐ」ということからしか考えないという習慣を止めることである。人はなぜはたらくか。はたらくことには

(一) 自分や家族が生存するため、

(二) 健康で文化的な生活を営むため、

(三) 自分の力量・度量を發揮し、自己の存在感を確認するため、

(四) 社会的に承認された役割のなかに自己を位置づけることによるアイデンティティの確立、

(五) 人間と自然の歴史のなかのひとときを生きたことの意味の確認といつようなさまざまな意味がある。

その意味が、資本主義社会では、労働力の商品化」と言つ水準でしか評価されないといふ点に問題がある。

彼は本の中でインドでの哲学者であり経済学者でもある J・C・クマラッパは、次のようにまとめています。

皆さんのスーパー

株式会社 **みち屋**

代表取締役 **道畑 勇**

本 部 和歌山市岩橋 7 2 9 番地の 6
TEL (073) 473-4197

松 島 店 和歌山市加納 2 4 6 番地の 1
TEL (073) 474 - 3500

貴志川店 那賀郡貴志川町大字北山 5 1 7 番地
TEL (0736) 64- 7020



(5)

「仕事というものの性質が正しく把握され、実行されるならば、仕事と人間の高尚な能力との関係は、食物と身体との関係と同じになるだろう。仕事は人間を向上させ、活力を与え、その最高の能力を引き出すように促す。仕事は人間の自由意思を正しい方向に向け、人間の中には住む野獣を手なずけてよい道を歩ませる。仕事は人間がその価値観を明らかにし、人格を向上する上で最良の舞台になる」

人間は仕事がつまみたく見つかからないと、絶望に陥るが、それは単に収入がなくなるからではありません。シュマツハーはこのことに次のように言っています。

「規律正しい仕事だけがもっている人間を豊かにし活力を与える要素が失われてしまうのが原因である」

「現代経済学者は、完全雇用は『引き金をもつと安定させるためには、完全雇用よりやや低めの雇用状態で経済を運営するより』経済的ではないか、などについて精緻な研究を行うだろう。その場合、成功の決め手になるのは、一定期間生産される財の量である。」

仏教的な考え方からすれば、この発言は真理をさかさまにしたもの、モノを人間より尊び、創造的活動より消費を重視するものである。それが意味するところは、力点を労働者から労働の

生産性に移すということであり、いい換えれば、にんげんから人間以下のものに移すことであり、悪の力に屈伏することである。仏教経済学で経済計画を作るとすれば、まず、完全雇用の計画から出発するだろう。そして、その目標は家庭外の「仕事を求めるすべての人たちに職を与えることである。雇用の極大化でも、生産の極大化でもない。婦人は、一般的にいつて『家庭外の』仕事を求めないものだから、会社や工場で婦人が大規模に雇用されているのは経済運営の重大な失敗のしるしと見られるだろう。とりわけ、幼い子供を放任して、母親を工場で働かせることは、仏教経済学者から見ても不経済である。」

今日(八月二十日)、失業率が五%になり、潜在失業率は十%を超えている現状でも主婦が家庭に戻ることが出来ず、子供や家庭の老人の介護に専念できず、むしろ家計に苦しみ、外に仕事を求め苦勞をしている現状です。

「仏教は『中道』であるから、けつして物的な福祉を敵視をしない。解脱を妨げるのは、富そのものでなく富への執着であります。シュマツハーはいつ、『富の基本的な源泉が人間の労働であるという点』については、だれしも異論はないところでありませぬ。現代の経済学者は『労働』や仕事を必要悪ぐらいにししか考えない教育を受けている。雇い主の観念からすれば、労働はしよせん一つのコストにしからず、これはたとえばオートメーションを

採り入れて、理想的にゼロにしたところである。労働者の観点からいえば、労働は『非効用』である。働くということは、余暇と楽しみを犠牲にすることであり、この犠牲を償うのが賃金ということである。したがって、雇い主からすれば、理想は雇い人なしで生産することであるし、雇い人の立場からいえば、働かないで所得を得ることである。

このような考えの及ぼす影響はきわめて甚大であります。仕事の理想が人間の『仕事を減らせる』ことであるなら、どんな方法でもよいことになる。オートメーションを別にすれば、一番効果のある方法は個々の労働者がまったく訓練もほとんどいらぬ手足の動作だけの繰り返して可能な完結した生産工程を分割して、完成品を高速で生産することが可能であります。」

それでも、今日は人件費の高騰によって国内生産は国際競争力に勝てず人件費の安い外国に生産を依存する状況が生まれて国内失業者が増えている。次から次へ問題が生み出され

仏教的観点から見る『仕事の役割』というのは少なくとも二つある。人間にその能力を発揮・向上させる場を与えること、一つの仕事を他の人たちと共にすることを通じて自己中心的態度

を棄てさせること、そして最後に、まっとうな生活に必要な財をとサービスを創り出すことである。

このような考え方の影響するところは甚大であります。仕事というものを労働者にとつて無意味で退屈で、いやになるような、ないしは神経をすりへらすようなものにするのは、犯罪すれすれである。それは人間よりモノに注意を向けることであり、慈悲心を欠くことであり、人間の生活のいちばん遅れた面にやみくもに執着することである。同じように、仕事の代わりに余暇を求めるのは、人生の基本的な真理を正しく理解していないことを示すものであります。その真理とは、仕事と余暇とは相補って生という一つの過程を作っているものであつて、二つを切り離してしまつと、仕事の喜びも余暇の楽しみも失われてしまつということ

小生の日時の寺務は広い山の境内ですが、冬は沢庵漬け、春は草引き、タケノコ掘り、アジサイや水仙の手入れ、山菜採り、山菜の佃煮造り、梅子漬け、アジサイの植付け、夏は毎夕の花への散水、草引き、草刈、等々は楽しい余暇そのものであります。アジサイ寺にと希望を持って手入れする仕事は私たちが夫婦の余暇であります。 次号へ

次号へ

あ あ 嗚呼天馬山

岡崎博行氏は義兄(妻の長姉婿)故松浦正次兵長は義兄(妻の長兄)博行兄は戦後復員直ぐ戦友故松浦正次兵長の実家(有田郡安諦村杉野原・現清水町)の両親に涙の報告をされました。

戦地で花と散った戦友の妹と後に結婚されたのであります。今年も義兄・岡崎氏は戦友の魂を祭る護国神社や忠霊塔へ自作の詩吟を今は亡き戦友に奉納すべく足を運ぶ。



戦友会の事務局長を務めたり、静かに甲う姿勢と有田郡吉備町大賀畑の平家落武者を先祖とし柑橘栽培に余生を送る兄を尊敬する。

碩峯

元十七年兵 岡崎博行

光陰は矢の如く過ぎ去れ共年々歳々折にふれて思い出すのは、五十七年か前の事であり乍ら、あの強烈な感動は今でも身の引き締まる思いがして忘れる事が出来ない。炎熱焼付様な蒸し暑い太陽の下で四十日に及ぶ衝陽攻防戦最後の一日、昭和十九年八月七日の朝を私達第一中隊は衝陽西禅寺境内に於て迎えたのであります。

東北前方、凡そ百メートルもない間近な天馬山には、敵の壕やトーチカ陣地があり、地下トンネル又その手前にはクリーク鹿砦(ろくさい)障害物、鹿砦：木や竹を組み合わせて鹿(しか)の角のような形にして敵の侵入を防ぐもの。さかもぎ、加えて右方向には実に強力な側防火器又、後方には迫撃砲陣地が控えており、敵は此の天馬山を死守せんものと不気味に待ち構えて居た。其の全く攻め入る隙のない天馬山へ大

隊長代理畑倭文男中尉は西禅寺の土堀に穴をあけさせ、大隊砲を突出して砲と重機の援護の下に、我第一中隊と第二中隊は午前十二時を期して突入、以て天馬山を占領せんと必勝の決意で待機して居たのであります。言う迄もなく第一中隊の勇士は連日の激戦に且てない多数の犠牲者を出して、中隊長代理には小松清次郎准尉殿が指揮をとつて居た大隊砲は、零距离射撃との事で砲身から覗き込んで天馬山正面敵トーチカの銃眼に照準を合わせ射撃開始、忽ちバット炸裂して土煙が上る。続いて次々と撃てば、流石の敵トーチカも暫し沈黙した様子である。ここぞと小松准尉殿は第一中隊の先頭にたつて、さあ行くぞ、我に続けと計り、クリークとの間を抜刀して勇ましく駆け出して行く指揮班各小隊も遅れじと後に続いた。間近な天馬山のこと直ぐ山の麓に取り付いたものの敵側防火器は一斉に火を噴き始め、今よじ登らんとしている足元に前後左右に敵弾雨霞の如く、じつとしては居られない。只、前進攻撃あるのみ。山の上へ上へと撃たれながら這い登って行く機関銃の弾であらう。相ついで足元に四、五発の土煙が上がったと思ふ瞬間、一足先を登って居た。古兵殿が声を上げて臍を抱いた苦しきものである。見る見る中に袴が鮮血で朱に染って行くどうしようもない衛生兵前へ古兵殿がやられましたと叫んだ。

敵は近くにあるらしく発火した木の柄のついた手榴弾は上から目の前へ飛んで来た。爆発してはいたまりもない。咄嗟に掴んで投げ返した。敵味方が入り乱れて居るのである。間近で手榴弾が炸裂した私の左上臍部に激痛を感じた。痛さをこらえ、もう一息登った処は敵の今居た壕である。乱射する側防火器を避ける為に壕に飛び込んだ。ほっと一息入れた時、敵の発射した擲弾銃の弾は私の足元に落下、あつと思つた。爆発すれば吹き飛んで居たであろうが、幸運にも不発弾で命拾いをした。それは兎も角、第一中隊各小隊の勇士たちもさぞかし弾雨の中に身を晒しながら敵と入り乱れて奮戦されて居た事であらう。其の頃既に天馬山山頂へと残敵を追撃遮二無二天馬山山頂を占領した勇士こそ西浜与六分隊長福田賢美兵長土師生一、九六式軽機手松浦正次兵長池清上等兵の勇猛果敢な勇士達であった。

勇士達は尚も山頂より向う側面に下り、残敵の沈む土レンガ作りのトーチカを掃蕩せんと、松浦兵長は手榴弾の安全栓を抜いて、今將に投げ込まんとした刹那、無念敵弾は松浦兵長の左眉頭部貫通、一言もない。

只、安全栓を口にしたまま壮絶なる戦死を遂げられたとのことであります。其の直後、池上等兵の背中の弾薬の入った背囊はいのつに、「背囊・背に負う方形のかばんで、毛皮またはズックで作ったもの。将兵などが用いる。」なぜか火がついて燃って居た。それに気付いた土師上等兵は、急いで背囊の火を消し止め、弾薬爆発寸前の処を事なきを得てほっとした。尚もトーチカ内の残敵を西浜分隊長福田兵長、土師池上等兵の勇士達に依って掃蕩するも、西浜与六分隊長は右手に至近距離からの銃弾を受け、手当ての甲斐もなく二十有余歳、前途有為の尊い一命を湖南の花と散ったのであります。思えば惜みても惜みても痛恨の極みであります。やがて八月七日の夕陽が傾く頃には、流石の天馬山陣地も我軍の完全占領する処となり、銃声も途絶えた頃、松浦正次兵長戦死の知らせを受け、私は松浦の教え子中村一等兵と共に遺体収容に駆けつけ、変わり果てた友の姿に暫し万感胸に迫り来るものがありました。遺骨をひらつた後は、西禅寺の裏山へ、心に冥福を祈りつつ葬ったのであります。明くれば八月八日衝陽城内より白旗を揚げ降伏、敵将兵は続々と隊伍を組んで来り、衝陽攻防の激戦は終わったのだ。

敵しさの中に人情味ある西浜与六分隊長
親愛なる無二の戦友松浦正次兵長
勝つことを信じて祖国の為に尊き一命を捧げ、身は大陸の戦野に朽ち果てると雖
(いえ)ども、靈魂は不滅なり。嗚呼天馬
山一番乗り雄々しき勇士のみたまよすらかにあれ。

月日は流れて戦後幾星霜戦争とは如何に無常な事であり残酷なものであることを身を以って味わい、世界平和を乞い願うとき、今や日中平和友好文化交流の歓迎すべき時代が訪れ洵(まこと)に心から歓びに堪えないのであります。若き尊き一命を捧げ、我が祖国繁栄の礎となられた幾多戦友諸士の御冥福を衷心よりお祈り申し上げる次第であります。
合奏

素晴らしき風信!

堺市 杉本恭一郎

小生、さしたる見識も無いままに佛の教えを聞きかじり、今は妻や義母ととりとめなく霊場巡りを繰り返してあります。先生ほどの試練と見識や経験も無く、またバイタリティーに溢れた様々な活動を通して、何かやるうというような大それた考えも、恥ずかしながら持ち合わせられておりません。ただ佛敎の根底にある深遠で広大無辺な真理に惹かれ、それに触れたい想いで今は彷徨(ほうこう)って彷徨:あてもなく歩きまわること。いる身です。

小生がこの佛敎に触れるきっかけを作ってくれたのは、十年ほど前に、(ご当地藤白神社にも縁の深い紀州が生んだ天才学者南方熊楠に出会ったからのことです。

和歌山在住の方ならば、おおよそ彼の在住はご存知かと思いますが、八ヶ国以上とも言われる語学に精通し、植物・粘菌学から歴史民族学、比較宗敎学とその博覧強記ぶりにまず驚かされ、白浜臨海番所崎にある南方熊楠記念館に向いてからは、田辺市教育委員会が提唱する「南方邸保存顕彰会」にも入会しまして、平凡社の全集などを読み漁る中で、廃物毀釈の嵐の中で打ち壊されていく神社仏閣と森林破壊に立ち向かい、自然保護とそこに生きる生物や人の心を、体を張って守ろうとした彼の生き様と思考、学問への飽くなき探究心、宗敎においてもその造詣の深さや独特の曼陀羅観について、時の高野山法主土宣法竜師と交わす宗敎論にも圧倒され、凄い人物がいたことに驚かされました。

熊楠に触れて、人と自然、ミクロからマクロの宇宙を包蔵する曼陀羅の世界観にも興味を掻き立て、大師に関する著書などを読むうちに、webサイトで三敎指歸の解説が目にとまり、厚かましくも仮名を児の続きを先生に催促したことがお近づきのきっかけとなった次第です。

この響指歸を高野山宝物館で見たとときには、えもいわれぬ墨跡にパワーのようなものを感じ、これこそ弘法大師が未だに人々を動かし続ける秘められた力。



有限会社 **ミヤタケ**
代表取締役 **宮下隆博**

〒640-8329
和歌山市田中町4-119
TEL(073)422-2327 FAX(073)436-5598



人に優しい音声発生装置!

有限会社 **日本メディテックス**
代表取締役 **山口昭昌**

〒641-0054
和歌山市塩屋5丁目5番43号
TEL(073)446-2009 FAX(073)446-3696

数々の難局をも超人的に切り抜けた今にも連綿と生きて、人々の心のよすがとなつてゐる源泉の一端ではなからうかと感じました。その後、先生にはご多忙中にも拘らず、さらに解説を続けられ拜読致しまして、そのご努力には頭の下がる思いであります。

先人も含めて多くの人々と様々な出会いやご縁があり、人との触れ合いの中で、得難い温もりを感じたり、ある時は失望もしたりして、迷いながらも少しずつ教えられ、充実した日々を送つております。

本多さまとは、これをきつかけにお近づきの交わりが出来たことを感謝いたし、諸々のお教えを頂きながら今後もお付き合いをお願いし、気候の良い日に改めてお伺いすることを誓ひ申して、まずは書面にてご挨拶少々御礼を申し上げます。

奥様にもよろしくお伝え下さいませ。

平成十三年八月一日

メールで素晴らしい杉本さんと巡り会えたことはまさに仏縁であります。杉本さん家族そつと四国八十八ヶ所を巡拝されてるそつとで、その佛教とのきつかけは

南方熊楠との出会いであつたと、普通なら熊楠は粘菌を発見した特異な生物学者・植物学者であることを知ることでしょう。

ところが杉本さんは実は南方熊楠を真の生物学者たらしめる真相(真理)を見ぬかれたことがまことに素晴らしい。

私は昨年来高野山大学奥山直司助教授の講義や南方熊楠の書簡、文献から学び、熊楠に感動をした一人です。

熊楠は生物学者である前に空海密教学者であつたと言えます。

即ち無限の大宇宙に五大要素 地・水・火・風・空 が育むのは唯一 地球だけである。それ故地球には五大要素が育むが故に、南極であろうと、北極であろうと、亜熱帯であろうとそれぞれ環境に適した生物が育んでいることを知る

そして、人間はその生物の中で唯一「識」を育んでいる。熊楠は生きる魂の歡びを一杯に感動したことだろう。熊野の原生林は雨が多く、湿度が高く、太陽の当たらないようなコケの中に粘菌を発見する。

粘菌は、カビなどの真菌と細菌の中間に位置する原始的な生物。熊楠の文章に経歴書では粘菌は腐敗せる植物を食ひ炭酸ガスを吸つて酸素を吐く、成熟に及んでは光に向かつて上にあがり結実成熟する。と書かれていますが、別の文面(書簡)で粘菌は酸素を吸つて炭酸ガスを吐く、と

言つて動物か? 植物か? 云々と書かれていたと思ひます。

時の高野山法主・土宣法竜師とはこれ又普通なら交友もとつくに断絶するところ遠慮無く宗教論を語り合つ、実は最も親愛なる友人、熊楠が遊学海外で土宣法竜師にアドバイスをする。

明治維新で廃仏毀釈、神社合祀を打出す明治政府に、空海密教を背景に立向かう。

日本は古代から人間の生活と密着した身近なところにある小さな神社、道祖神等々の神々を一ヶ所に集合させ合祀する条例に反対する。熊野古道の王子蹟ももれなくその運命にあつたところ、熊楠の尽力により王子蹟が残り、当地の橋本神社は熊楠の協力で所坂王子蹟と伝説の田道間守を合祀する神社となり、現在に至つています。その後彼は自然保護運動に生涯を捧げたといつて過言でないでしょう。

彼が信奉する弘法大師空海の最大の著作が『十住心論』であります。人間の心には十の段階がある。動物的な段階の心、人間的な心。その上が小乗佛教で、さらに大乘佛教、そして最高の心の状態が真言密教の心と...。心と心との変化成熟していくという考え方があります。私は空海においても心の探求は非常に重要なことであつたと思ひます。

南方熊楠もそつであつたらうと考える

と一層熊楠の功績に非常な興味を引く私であります。杉本恭一郎さんの興味も南方熊楠を知ることによつて、ご自身、益々佛教心を深める事となつた。ご家族の平安を衷心より祈念申し上げます。 合掌



昼間、境内のサクランボを食べに来た珍客狸

編集後記

十二歳年下の末妹を癌で亡くす、その悲しみは親を見送るそれにまさる。学生時代に小学生の妹を可愛がつた思い出もすっかり忘れていたが、法務教官の息子が母から聞いた話として語る。 我れ生かされている限り感謝の供養を誓う。

運転不注意の対物事故で久々に損保代理店にお世話になるも保険という形の無い商品の良否はその営業マンの言葉と親切さにあるといふことを知る、別の車種でお世話になっているさわらび保険の中家 保社長素晴らしさは光さえ放つ。